

2018年10月17日

いすゞ、高速道路における CACC 及び LKA を用いた

トラック隊列走行の後続車有人システムの公道実証に参画

いすゞ自動車株式会社(本社：東京都品川区、社長：片山正則、以下「いすゞ」)は、政府が進める「未来投資戦略 2018」に基づくトラック隊列走行の後続車有人システムの商業化に向けた公道実証に 2018 年 1 月より参画してまいりました。

今般、走行距離の拡大と高低差やトンネル等の多様な道路環境での技術検証を行うために、11 月 6 日から上信越自動車道にて後続車有人システムの実証実験、12 月 4 日から新東名高速道路において、CACC^{※1}に加えて新たな技術として LKA^{※2}を用いた世界初^{※3}の後続車有人システムの実証実験に引続き参画してまいります。

いすゞは社会課題の解決に向け、今後も政府が進める実証試験に参画し、トラック隊列走行の実現に協力してまいります。

※1 CACC(Cooperative Adaptive Cruise Control)：協調型車間距離維持支援システム

通信で先行車の制御情報を受信し、加減速を自動で行い、車間距離を一定に保つ機能のことで。

※2 LKA(Lane Keeping Assist)：車線維持支援システム

白線を検知して車線内での走行を維持できるようステアリングを調整する機能のことで。

※3 高速道路において、複数のトラック製造者が共同開発した CACC を用いた、異なるトラック製造者が製造したトラックに LKA を加えた後続車有人隊列走行は世界初です。

以上